

- \* 中干し後の水管理は、「**間断かん水**」と「**飽水管理**」によって、根の発達を促進する。
- \* 「**てんたかく**」の穂肥は、幼穂長1～2mmの時期に遅れずに施用する。
- \* 畦畔や雑草地の草刈りを徹底し、斑点米カメムシ類の発生を抑える。
- \* ほ場に置いてある補植用の苗は、速やかに除去する。

### 【コシヒカリの生育状況】

(6月12日現在:白井谷調査ほ)

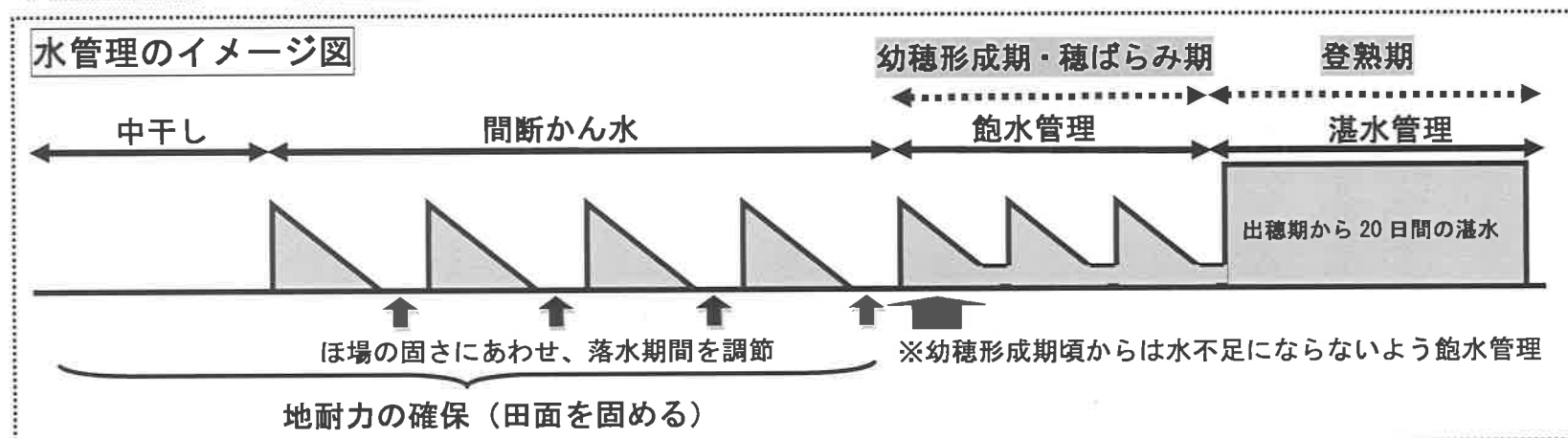
調査年	田植日	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		
H29	5/11	32.1	17.5	373	7.8	4.2
H28	5/15	30.5	21.8	399	8.2	4.2
近年値H22～28	5/11	33.1	18.7	352	8.2	4.4

### 1、中干し後の水管理

～「**間断かん水**」の後は「**飽水管理**」とする～

- ・中干し終了後は、間断かん水を行い、地耐力の向上に努めましょう。
- ・中干しが不十分なほ場は、幼穂形成期(てんたかく6月下旬頃、コシヒカリ7月中旬頃)まで繰り返して田干しを実施しましょう。
- ・幼穂形成期以降は飽水管理としてください。

(飽水管理は、「ほ場に入水→自然減水→足跡の水が無くなる前に入水」の繰り返しです。)



### 2、「てんたかく」の穂肥

～穂肥は幼穂長1～2mmで遅れず施用する～

#### ○基肥一発肥料の場合

- ・基肥一発肥料を施用したほ場でも、幼穂形成期頃に葉色が4.2程度まで低下した場合は、NKグリーン30(窒素成分16%)で7～10kg/10a程度の追肥を行い、穂揃期の葉色を4.5に誘導しましょう。

#### ○分施田の場合

#### 【穂肥(NKグリーン30)の施用時期及び施用量の目安】

	1回目	2回目
施用時期	6月27日頃 (5月上旬植えの場合) [幼穂長1～2mm]	1回目の10日後
施用量	10aあたり10～12kg	10aあたり12kg



※葉色が濃く(4.5以上)、茎数が多い(30本/株以上)ほ場では、1回目の穂肥の施用は控える

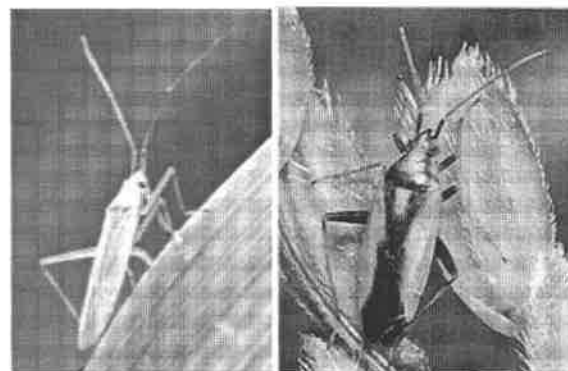
### 3、「てんたかく」の防除

～「てんたかく」の1回目防除は穂ばらみ期に実施する～

・苗箱施薬剤(ルーチンアドスピノ箱粒剤)には、紋枯病の薬剤が入っていないので、本田で防除する必要があります。1回目の防除は下の表を参考に穂ばらみ期に実施してください。

【主な斑点米カメムシ類】

- ・農薬を散布するときは、散布用マスクや手袋を着用して安全に作業しましょう。
- ・散布にあたっては稲の生育状況を十分に確認し、薬剤が株元までかかるよう、浅水状態で散布してください。



アカヒゲホソミドリカスミカメ

アカスジカスミカメ

### 【防除時期の目安】基本防除

散布時期	薬剤名・散布量	対象病害虫
1回目：穂ばらみ期 (出穂14日前頃) <b>7月8日頃</b>	ビームバシボン粉剤5DL 散布量：4kg/10a (収穫14日前まで)	紋枯病・いもち病・ ウンカ類・カメムシ類

※「てんたかく」の出穂予想：7月22日頃

※「てんたかく」の2回目以降の防除計画と「コシヒカリ」の防除計画は次号の特報でお知らせします。

- ◎ 農薬は使用基準を守って正しく使用しましょう。
- ◎ 農薬は飛散防止のため、風の無い時に散布しましょう。
- ◎ 生産履歴簿、GAPの記帳は速やかに行いましょう。

### 4、草刈りの徹底

～カメムシの発生源を減らそう～

- ・斑点米発生防止のため、カメムシ類の発生源となる畦畔や水田周辺の雑草地の草刈りを徹底しましょう。
- ・刈取った草は、用排水路に流したり、燃やしたりしないでください。
- ・草刈り作業の際は防護具を装着し、草刈機は安全に使用しましょう。



草刈運動期間 7月1日～7月10日 一斉草刈日 7月1日(土)～2日(日)